

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社 Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000945&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で安心して暮らせる様に「挨拶が出来る地域交流」を理念としている。ホーム内に理念を貼り意識を持てる様環境作りをしケアと理念に隔たりがないかカンファレンスで確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お中元、体験学習、保育園児訪問、近所からのおすそわけ等気軽に来て頂ける様な交流に努めている。玄関に介護相談の掲示を行い地域から孤立する事なく受け入れる様に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ認知症の人の理解や支援を情報交換し地域で介護についての相談がある方はいつでもお話を伺える事を伝えてます。実際にホームを訪問し相談に見えた方もおられる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日常生活の様子や取り組みを町内会長、御家族代表、地域包括支援センター、市役所職員、消防署職員の方々に報告し意見や要望を聞きサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター、生活支援課、消防署に日常の取り組みや実情を伝え連携・相談・質問を随時行ない助言を頂いて協力関係を築ける様に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に積極的に参加しホーム内にて研修報告をして全職員が把握出来る様勉強会を行ない日々のケアを振り返り確認している。外出の訴え時は、いつでも行ける様に安全対策を含めご本人の気分転換となり楽しんで頂ける支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加しホーム内にて研修報告を行い全職員が認識し日常生活の中で虐待行為が見過ごされていないか情報の共有を図り防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の方々と権利擁護に対する話し合いをし意見を聞いている。成年後見制度の研修会に参加して全職員に報告もしている。御家族から要望があった場合にはパンフレットや資料をお渡しし活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ホームでの生活の様子を伝え不安・疑問に対する説明を丁寧に行い納得して頂ける様心掛けている。又、契約書や重要事項説明書を用いて項目ごとわかりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	困り事、不安事を伺い御家族にも密にコミュニケーションを取り要望を確認し早急に対応している。又、苦情箱の設置により気軽に意見の言える体制作りも行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換を行い、提案を気軽に言い出せる様な環境作りをしている。対応出来る提案にはすぐに取り組み自分の意見が運営に反映出来ていると感じとれる様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に合わせた給与体制を確保しスキルアップを目指して働ける様取り組んでいる。個々にあった教え方をし職員が同じレベルに達する指導をし効率良く業務が終え仲間意識が持てる様に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	得意・不得意分野、勤務年数に応じた外部研修に参加しやすい様にしている。研修後は勉強会を行い職員が知識を共有し同じケアの方向性を持つ様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の会議・研修への積極的な参加と系列GHとの交流、情報交換をして質の向上を図っている。又、GH相互間研修を始め他のホームの取り組みや良い所を反映出来る様サービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりホーム見学を何度でも行って頂き雰囲気や職員の対応を感じ取って頂いている。又、事前訪問を必ず行い不安な事、困っている事を確認し信頼関係を築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホーム見学に何回でも来て頂いて環境や雰囲気を感じて頂き不安点、疑問点を確認出来る様接し都度連絡を取り合い安心して入居出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には丁寧に話を聞き希望されている事を見極め必要な支援が受けられる様対応している。見学、食事、引越しの送迎、行政手続きの代行等希望に添う様な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんに常に尊敬と敬意を持って接し少しでも出来る事があれば職員と一緒にしている。喜怒哀楽を共有し合い支え合う関係を築くと共に人生の先輩からの教えを頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて面会依頼、電話での会話・相談、病院受診、外出の気分転換、レクへの参加が出来る様御家族に協力を得ながら共に入居者さんを支え合う関係を築ける様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人との交流が持てる様面会や手紙、電話を通じ入居者さんの希望に添える様努めている。忘れていた時には、職員が思い出して頂ける様声かけをし交流出来る支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が会話を楽しめる様に職員が時折間に入り話の盛り上げに努めている。会話がかみ合わず不機嫌になり不満を訴えられた時には、速やかに職員が間に入り関係が悪化しない様改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、入居者さんや御家族にとっては思い出の場所であると考え気軽に立ち寄り思い出話しが出来る様努めている。実際に外出時に休憩所かわりに利用する方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時や日常会話の中で入居者さん、御家族の思いを確認しケアに反映している。訴えが困難な方は生活の中から把握しケアに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や病院を訪問し御本人、御家族に生活歴や馴染みの物、好きな物を確認し把握に努めている。生活史、生活背景も記入して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一緒に生活し見守りをしながら出来る出来ない分かる分からないを見極め、困難な事を少しでも可能となる様介助を行い現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の声も聞き全職員で情報交換している。サービス担当者会議には御家族、医師、看護師も参加し、意見や要望、医学的知見も取り入れた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やバイタル、食事、入浴、排便等を個別に記録しており細かな変化も見過ごさぬ様、情報の共有をし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退居時の引っ越しの手伝いや病院送迎、リハビリ、外出支援、行政の手続き代行等その時のニーズに応じた対応を御家族と相談し柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から孤立する事なく消防、町内会、近所の方から助言を頂いたり高校体験学習や保育園児訪問、ボランティア等の協力を得た支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の紹介をさせて頂き、了解を頂いたら適切な医療を受けられる様支援している。又、提携病院以外を希望される場合も本人や御家族の意向に添える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの体調の変化を職員が把握し週2回看護師の訪問時に伝えている。急変時には24時間連絡が取れる体制となっている。往診、受診時、時には電話にて情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した際には、お見舞いに伺い関係者にADLや病状確認をし早期に退院出来る様情報交換を行い退院後の生活に役立てている。(退院後も病院側とホームでの生活状況を確認し今後に活かす努力をしている。)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合の指針について説明し同意書を頂いている。生活状況に変化が見られ際再度意向を確認し御本人、御家族、医師と今後の対応を相談し方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に協力を得て全職員が応急手当や初期対応を行える様勉強会を行っている。避難訓練時にも消防署員から助言を頂き役立てている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。町内会の協力で会館利用の了解も得ている。セコム、スプリンクラー、系列GHの協力より緊急時にも早急な対応が取れる体制にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持ちプライバシーを損なわない様に対応し生活の中では話しを傾聴し人格の尊重に配慮した声かけ、対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が優先されるケアを行い職員都合で決定する事のない様にしている。意思疎通の困難な方にはハイ・イイエで答えられる質問をし対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一つ一つの動作に声かけを行い、見守りをしながら訴えがないか確認している。入浴時間、起床(就寝)時間、食事内容等は個人に合わせその人らしい生活が送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は洋服を選んで頂き、化粧、マニキュアを楽しまれ気分転換を図っている。訪問理容も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を職員と一緒にい味付けも入居者さんからアドバイスを頂き食器、彩にも注意している。片付けも出来る範囲でお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を把握出来る様記録している。おにぎりやバランス、嚥下を考えたおじやを提供したり水分摂取が十分に行える様声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る所は磨いて頂き出来ない所のブラッシング指導と介助をしている。口腔ケア、義歯洗浄により肺炎予防にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活の中で排泄リズムを把握し声かけしながらパット汚染が減少しトイレでの排泄が出来るよう支援している。尿路感染の予防に努めて気持ち良く排泄出来る支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し定期的に排便がある様軽運動、お手伝いで体を動かして頂き、冷水や牛乳を勧める等の個別対応を行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じた対応をし一番風呂を好む場合や同性介助を希望される方にも気持ちよく入浴出来る支援をしている。入浴拒否の場合は清拭・陰部洗浄・足浴等で個別対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	演歌体操の参加や出来る事を行う事で充実した生活が遅れ安眠出来る様に支援している。体調面を考慮しリビングや居室で休んで頂く支援もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用を全職員が把握し変更時には情報を共有し本人の様子を良く観察し医師に報告している。服薬時は飲み込むまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やコミュニケーションから習慣や好きな事を確認しお手伝い等を通じ充実した生活、気分転換が出来き楽しみのある生活となる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク企画に御家族や町内会長に参加のお誘いしをしたり、希望に応じ外出や外食・買物等個々に合わせた気分転換が出来る様にもしている。御家族と出掛けられる様に働きかけ楽しんで交流が持てる支援もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に保管方法や取り扱いの説明をし同意を頂いている。訪問販売や孫へのお年玉等希望に応じてお金を扱う事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙がいつでもやりとり出来るよう対応している。知人との交流が少ない方には希望を確認し継続した交流が図れる様電話等で支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾りつけ(ツリー、お雛様、リース等)をしている。喫煙所には空気清浄機を設置し、トイレの感染予防や清潔保持の為3時間毎の消毒も行っている。室温、湿度の調整に注意をし除菌加湿器も設置し居心地よく過ごせる様な工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にベンチを設置したり喫煙所を設け職員との会話の場にもなっている。廊下に椅子を置き一人でいても他者の動きが分かる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を確認し仏壇や写真等を持って来て頂き居心地よく生活して頂く様工夫している。御家族からの贈り物や誕生会のプレゼントを居室に飾り楽しめる工夫もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい時計やカレンダー、目印を設置し分る事の維持かつ向上を図っている。又、身体状況に合わせ安全面を考慮した環境整備を行っている。		